第1章　富山県の都市計画の方針（1／2）

1　富山県の都市計画の目標

1）　現状と課題

■　人口と都市構造

・本格的な人口減少・少子高齢化社会
・まちなかの空洞化、空き家・空き地の増加
・広く薄い市街地が形成されており、非効率な都市構造

■　地域交通

・自動車利用の比率が高く、過度に自動車に依存した交通環境
・高齢者の運転免許返納者増加、自動車を運転できない人の日常生活を支える公共交通サービスの確保・充実
・人口減少に伴う交通サービス低下の懸念
・デマンド型交通等、地域ニーズに対応したサービスの導入

■　安全・安心な暮らし

・気候変動に伴う水災害の頻発化・激甚化
・流域治水の考え方を踏まえた水災害に強いまちづくり
・地震・津波・火災などに強く、安心して暮らせる地域づくりが必要

■　産業（商業、工業、農業）

・大型店が幹線道路沿道に多く立地し、買物による移動が広域化
・中心市街地の空洞化が進み、商店街の衰退や空き店舗の増加
・土地利用規制が緩い非線引き白地地域等で拡散的な農地転用

■　広域交通、物流基盤

・北陸新幹線を活かした地域振興
・東海北陸自動車道、能越自動車道、スマートインターチェンジの追加等、高速道路の利便性向上
・富山空港の国際線訪日外国人受入体制の整備や国内空港ネットワークの充実・強化
・伏木富山港の機能強化、クルーズ客船の受入環境整備

■　環境・エネルギー

・温室効果ガスのさらなる排出抑制
・脱炭素社会への取組み

第1章　富山県の都市計画の方針（2／2）

1　富山県の都市計画の目標　2）　都市計画の基本理念

～　みんなで創ろう！人が輝く　高志の国　～

○　快適で活力あるコンパクトな都市づくり

自動車に過度に依存した拡散型都市構造から公共交通を軸とした集約型都市構造（コンパクトアンドネットワーク）へ転換を図る

- 市街地の拡散を抑制
- まちなか居住の推進、都市機能の集積
- 地域交通ネットワークの充実
- 脱炭素型に資する都市づくりの推進

○　安全で安心して暮らせる都市づくり

地震、水害、土砂災害等の災害から安全で安心な暮らしを守る

- 土地利用も含めたハード・ソフト両面の取組みの推進
- 事前防災に資する公共施設等の長寿命化など安全・安心して暮らせる都市づくりの推進
- 富山県復旧・復興ロードマップ等と連携
- 緊急輸送道路における重要構造物及び下水道施設の耐震・液状化対策を推進

○　地域の個性を活かした魅力ある都市づくり

交流人口の拡大や定住促進の取組みを推進する

- 豊かな自然環境や美しい景観、歴史・文化資産等の保全
- 地域資源を活かした都市づくりの推進

○　広域的な交流･連携を支える都市づくり

人やモノの交流をさらに推進する

- 広域的な交流・物流ネットワークの更なる整備充実
- 交通結節点の整備充実や道路網の整備による広域的な交流・連携を支える都市づくりの推進

第2章　黒部都市計画区域（1／2）

基本理念

**～住民の参画と協働による
魅力あるまちづくりとその見える化～**

魅力創出に向けた取組を効果的に進め、検討状況を見える化しながら、住民の皆さんと一緒にまちづくりを考える。

- ○ 交通ネットワークを活かした都市づくり
- ○ 地域（山・里・川・海）の特性を活かした都市づくり
- ○ 安全で安心して暮らせる都市づくり
- ○ 自然と共生し、景観に配慮した都市づくり



ポイント1

都市機能の集積と魅力ある市街地の形成

・中心市街地である三日市地区においては、居住誘導を集中的に進めると同時に、空き家や空き店舗の利活用、都市機能の更新や導入を図り、出かけやすい、出かけて楽しい魅力的な市街地の形成に努めます。

ポイント2

市街地における居住人口の増加

・密集市街地や都市基盤の不十分な住宅地については、土地区画整理事業などにより計画的な市街地形成を図ります。
・新たな住宅需要に対しては、コンパクトなまちづくりを進める観点から、黒部市立地適正化計画で設定した居住誘導区域を中心に立地誘導を図ります。
・中心市街地における移動の利便性向上に努め、居住誘導の促進を図ります。

三日市保育所周辺土地区画整理事業

第2章　黒部都市計画区域（2／2）

ポイント3

災害に強いまちづくり

・密集市街地においては、地域住民が安心して快適に暮らせるよう、面的整備事業等の活用を図ります。
・下水道施設の耐震化や液状化対策

ポイント4

歴史・文化・景観など、観光・地域資源の活用

・宇奈月温泉地区は、観光地としての魅力を高めながら、自然と調和した宇奈月温泉らしい街並み景観の創出等に努めます。
・生地地区においては、美しい海岸線と漁港周辺のまちなみの景観を保全します。
・北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅及び黒部インターチェンジ周辺は、県東部の玄関口にふさわしい地域になるよう、景観に配慮します。

ポイント5

公共交通の確保と交通結節点の強化

・「鉄道を基軸とした公共交通網」を維持するため、在来線駅のパークアンドライド機能の向上や主要バス停での上屋整備などの待合環境の改善を図ります。
・中心市街地での高齢者にも利用しやすい移動手段を検討するとともに、くらしの足を充実させ、出かけやすいまちづくりの推進に努めます。
・公共交通全体の利用促進に努め、地域社会を支えていく持続可能な公共交通サービスの確保に努めます。



バス停上屋の整備事例

ポイント6

工業地の配置

・既存の工業地や黒部インターチェンジ周辺においては、今後も工業基盤の整備や工場の集積を図ります。さらに、一部未利用の新石田企業団地において企業の集積に努めます。



新石田企業団地